

RPA市場の展望 2018-2030: 生成AIとハイパーオートメーションが牽引する新たな成長戦略

I. エグゼクティブ・サマリーと主要提言

1.1. 本調査の核心: RPAからハイパーオートメーション(HA)へのパラダイムシフト

ロボティック・プロセス・オートメーション(RPA)市場は、2018年以降、単なる業務効率化ツールから、企業変革を推進する戦略的プラットフォームへと進化しました。この進化の核心は、生成AI(GenAI)を含む高度な人工知能技術群がRPAと統合されたことによる、ハイパーオートメーション(HA)へのパラダイムシフトです。

ハイパーオートメーションは、ルールベースのRPAに加え、AI(人工知能)、機械学習(ML)、自然言語処理(NLP)、ローコード/ノーコード(LCNC)開発、ワークフロー・オーケストレーションを組み合わせ、エンドツーエンドのビジネスプロセス自動化を推進する、より広範な概念です¹。従来の自動化が単純な定型作業に限定されていたのに対し、HAは非構造化データの処理や複雑な意思決定といった、知識労働の中核へとスコープを拡大しています。

この市場の拡大は、HAソリューションによって牽引されています。人工知能主導のハイパーオートメーションの世界市場は、2024年に491億米ドルと推定され、2030年までに1,449億米ドルに達すると予測されており、この期間の年平均成長率(CAGR)は19.8%に上ります¹。これは、RPA単体市場の予測を包含し、全体的な自動化投資の増大を示しています。企業が持続可能な成長と競争力強化を目指す上で、単純なタスク自動化から、GenAIエージェントを活用したエンドツーエンドの「インテリジェントな自動化」戦略へと移行することが、今後の主要な戦略的インサイトとなります。

1.2. 2030年までの市場規模予測とCAGR(グローバルおよび日本市場)の概要

日本のRPA市場は、グローバル市場の中でも特に急激な成長を遂げてきました。ITRの推計に基づくと、国内RPA市場は2017年度の売上金額35億円から、2022年度には400億円規模へと爆発的に拡大しました⁴。この期間のCAGRは62.8%という驚異的な数字であり、RPAが定型業務効率化の観点から他業種へ一気に普及した時期を裏付けています⁴。

2024年以降の市場は、ハイパーオートメーションへの進化により、引き続き高い成長ポテンシャルを維持しています。日本市場は、AI主導のハイパーオートメーションセグメントにおいて、2024年から2030年の分析期間中にCAGR 17.9%で成長すると予測されています¹。これは、米国(CAGR 17.3%)や中国(CAGR 18.8%)に匹敵する成長率であり、国内におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)の緊急度の高さを反映しています。

また、GenAIとの組み合わせに対する市場の期待は極めて高い状況です。国内のRPAユーザーを対象とした調査では、既にGenAI×RPAを利用している企業は31%に上り、さらに53%の企業が検討中であると回答しており、合計で84%のユーザーがこの新しい技術融合に関心を示していることが明らかになっています⁵。このデータは、GenAIがRPAの次の成長を決定づける中核技術として強く認識されている根拠となります。

1.3. GenAI統合による市場構造の変化

GenAIは、インテリジェンスを自動化プロセスにシームレスに統合することで、RPAの適用範囲と能力を本質的に変革しました²。特に、GenAIの自然言語理解、コンテンツ生成、パターン認識の能力は、RPAが従来のルールベースの限界を超え、非構造化データ(契約書、メールなど)の処理を可能にしました⁶。

競争環境も大きく変化しました。従来のRPAベンダー間の競争軸は、プラットフォームベンダー、特にMicrosoftのCopilotやPower Automateの台頭により、再定義されています⁵。市場は、特定のRPAツールの機能優位性を競う段階から、複数のAI、RPA、業務システムを連携させ、複雑なプロセスをエンドツーエンドで自動化する「エージェント型オーケストレーション」能力を競う「エコシステム競争」へと移行しています⁷。主要なRPAベンダーとMicrosoftとの双方向統合が進んでいることは、企業が単一技術に依存せず、複合的なソリューションを求める必然性を強く示しています。

II. RPA市場の歴史的変遷と拡大の基礎(2018年までの分析)

2.1. RPAの定義と初期の導入動機(定型業務の効率化)

RPAは、Robotic Process Automationの略称であり、ソフトウェアロボット(ボット)を使用して、人間が行うキーボード操作やマウス操作といった定型的なPC作業を自動化する技術として登場しました。初期の導入は、主に金融・保険業など一部の業種で先行していました⁴。

導入の主要な動機は、業務効率の向上、ヒューマンエラーの削減、および人件費の削減を通じたコスト最適化でした⁸。RPAは特に、経理、人事、総務といったバックオフィス部門における、反復的でルールが明確なデータ入力やデータ移行の業務で大きな効果を発揮しました。この初期の成功が、後の大規模な市場拡大の基盤を築きました。

2.2. 日本市場の初期爆発的成長期(2017年～2022年)の検証

日本国内のRPA市場は、2017年度に前年度比約4.4倍の急速な伸びを示し、この年を境にRPAツール導入の動きが他業種へも大きく広がりました⁴。2018年度の市場規模は88億円となり、高い成長率が継続し、2022年度には400億円市場に到達するという予測が示されました⁴。

この2017年から2022年にかけてのCAGR 62.8%という驚異的な成長率は、単なる効率化要求の結果ではありません。この急速な市場拡大の背景には、日本特有の構造的要因が存在します。それは、少子高齢化とそれに伴う労働人口の減少という深刻な課題です⁹。多くの企業にとって、RPAは業務改善の手段である以上に、「近い将来に予想される深刻な人手不足」を補うための、経営上の必須要件、すなわち事業継続性を確保するための投資として緊急度が高まったためです¹⁰。この構造的な課題が、他国と比較しても突出したRPA市場の成長率を支えた根本的な根拠となります。

2.3. 従来のRPAが抱えていた限界

RPAは定型業務の自動化に成功しましたが、その能力には明確な限界がありました。従来のRPAは、あらかじめ定義されたルールや画面構造の変更に非常に弱く、非構造化データへの対応が困難でした。

具体的には、OCR(光学文字認識)の進化はあったものの、自由記述のメール、PDF形式の契約書、

複雑な画像データなど、形式が定まっていない非構造化データから意味のある情報を抽出し、判断を下すことは不可能でした¹。この技術的な壁が、RPAの適用範囲をタスクの実行に留め、ビジネスプロセス全体のエンドツーエンドの自動化を阻害する主要因となっていました。企業がRPAを導入し、一定の効率化を達成した後、次に直面した課題こそが、この「非構造化データと複雑な意思決定」の壁でした。この限界を突破するために、AI技術の統合が不可避となりました。

III. 2018年～2030年の市場拡大予測と市場の再定義：ハイパーオートメーションの時代

3.1. グローバル市場規模予測の比較分析 (RPA vs. AI主導ハイパーオートメーション)

2030年に向けたRPA市場の拡大予測を分析する際、市場定義のスコープの違いを明確に理解する必要があります。現在、市場の牽引役は、RPA単体ではなく、AI技術を統合したハイパーオートメーションソリューションです。

広範なスコープを持つAI主導のハイパーオートメーション市場は、2024年に491億米ドルと推定され、2030年には1,449億米ドルに達し、CAGRは19.8%で成長すると予測されています¹。これは、RPA、AI/ML、NLP、LCNCなど、自動化に必要な全てのコンポーネントを含んだ、企業が自動化戦略に投じる総投資額の全体像を示しています。

一方、狭義のロボティック・プロセス・オートメーション (RPA) 単体市場も、非常に高い成長率が予測されています。この市場は、2024年に37.9億米ドルと推定され、2030年までに308.5億米ドルに達する見込みであり、2025年から2030年までのCAGRは43.9%と予測されています¹¹。

狭義のRPA市場のCAGRが広義のHA市場のCAGR(19.8%)よりも高いという事実は、コアとなるRPAソフトウェアの技術革新、特にクラウドベースの提供モデルやGenAI統合モジュールへの移行が急速に進んでおり、以前は自動化できなかった新しい業務領域の需要を強く捕捉し始めていることを示唆しています。しかし、経営層が認識すべきは、自動化への真の投資全体は、ハイパーオートメーション市場の規模(2030年に約1,449億ドル)によって表されるという点です。

Table 1: RPA/ハイパーオートメーション市場規模予測比較 (2024年 vs. 2030年)

市場定義	2024年推定規模 (USD)	2030年予測規模 (USD)	予測CAGR	主要なデータソース/スコープ
AI主導ハイパーオートメーション (グローバル)	491億 ¹	1,449億 ¹	19.8% (2024-2030) ¹	RPA + AI/ML + NLP/CV + LCNC統合 ¹
RPA単体 (グローバル)	37.9億 ¹¹	308.5億 ¹¹	43.9% (2025-2030) ¹¹	運用効率とコスト削減に特化 ¹¹
日本市場 (ハイパーオートメーション)	N/A (高いシェア) ¹¹	N/A (CAGR 17.9%) ¹	17.9% (2024-2030) ¹	APAC地域における重要な成長市場 ¹

3.2. 日本市場の成長予測と特性 (デジタルトランスフォーメーションの加速)

日本市場は、ハイパーオートメーションの世界的な拡大において重要な役割を果たすと予測されており、2024年から2030年の間にCAGR 17.9%で成長することが期待されています¹。この継続的な成長は、日本の企業が直面するDX推進の緊急性の高さを直接反映しています。

国内では、中堅・大手企業における部門浸透率は43%に達しており、RPAの導入がある程度進展していることが確認されています⁵。一方で、中小企業の導入率は15%に留まっており、このセグメントが今後の大きな成長の余地として残されています⁵。GenAIの普及とLCNC開発プラットフォームの進化は、高度な技術スキルを持たない一般のビジネスユーザーでも自動化フローを構築することを可能にし、中小企業へのRPA/HAの普及を加速させる主要な推進力となるでしょう。

3.3. 市場の成長ドライバー: コスト最適化、生産性向上、デジタル化の普及

ハイパーオートメーション市場を牽引する主要な要因は多岐にわたります。まず、業務効率の抜本的な向上と財務的節約に対する企業の継続的な需要です⁸。また、デジタルトランスフォーメーションの加速、リモートワークやハイブリッドワークモデルの台頭も、インテリジェントな自動化の需要を後押ししています¹。

ベンダー側も、需要の増大に対応するため、AIや機械学習、クラウドモデルに基づく新しいRPAソリューションを継続的に発表しています¹²。さらに、顧客体験の向上とパーソナライズされたサービス

に対する要求の高まりも、複雑な顧客対応プロセスを自動化するHAソリューションの導入を促しています⁸。特筆すべきは、COVID-19パンデミックが、特にヘルスケア分野におけるRPAソリューションの採用を増加させ、2020年の市場成長率を8.8%押し上げるという実績を残した点です。これは、非常事態下における事業継続性確保のために自動化が不可欠であることを示しています¹²。

3.4. 市場の抑制要因と課題

市場の急速な拡大が進む一方で、抑制要因も存在します。従来のRPA製品や最新のHAソリューションは、初期導入コストが高く、特に中小企業にとっては導入の障壁となることがあります¹³。また、RPAは導入後のメンテナンスや、複雑な自動化ワークフローを管理するための専門知識が必要とされるため、人材確保が課題となるケースも多く見られます。

さらに、GenAIの統合に伴い、新たな課題が浮上しています。それは、セキュリティ、データガバナンス、そして倫理的なAI利用（責任あるAI）の確保です。AIエージェントが企業の機密データや顧客データにアクセスし、複雑な意思決定を行うようになるにつれて、これらのガバナンスとセキュリティの課題は、企業の自動化戦略における最大の懸念事項となる可能性があります。

IV. 生成AI (GenAI) がもたらす市場構造の変革：インテリジェンスの統合

4.1. ハイパーオートメーションへの移行：GenAI、ML、LCNCの統合

ハイパーオートメーションは、RPA単体では不可能だったエンドツーエンドのビジネスプロセス自動化を実現するために、人工知能(AI)、機械学習(ML)、自然言語処理(NLP)といった高度なインテリジェンス技術を不可欠な要素として統合します¹。GenAIは、このHAのフレームワークにおいて「インテリジェンス層」として機能し、ボットに人間のような理解力と判断能力を提供します。

ハイパーオートメーションの主要な構成要素は、RPA、AI/ML、インテリジェント・ビジネス・プロセス管理スイート(iBPMS)、イベント駆動型ソフトウェア・アーキテクチャ、そしてローコード/ノーコード(LCNC)開発プラットフォームです²。LCNCを活用することで、企業は全体の開発スケジュールを最大60%から70%短縮することが可能になり、自動化プロジェクトのリードタイムが大幅に短縮されます²

。

4.2. GenAIがRPAに付与する新たな能力：非構造化データ処理とエージェント型オーケストレーション

GenAIがRPAにもたらす最も革新的な変化は、非構造化データの処理能力の飛躍的な向上と、複雑なワークフローにおけるインテリジェントな意思決定の実現です。

4.2.1. 非構造化データ処理の飛躍的向上

従来のRPAでは、請求書や契約書などの非構造化データを含む商業文書の処理は大きなボトルネックでした。しかし、GenAIは、OCRで文書を抽出した後、そのデータを解析し、必要な情報をインテリジェントに抽出・分類し、自動的にデータフィールドに埋めることが可能になりました⁶。これにより、RPAの適用範囲は、固定されたシステムインターフェースを介した定型作業から、知識労働者が行う文書理解やデータ分析の領域へと拡大しました²。

4.2.2. 意思決定の自動化とエージェント型オーケストレーション

GenAIは、パターン認識、継続学習、自然言語理解の能力を活用し、リアルタイムの入力に応じて動的な意思決定プロセスを引き受けることができます¹。これにより、ルールベースの硬直的な自動化から脱却し、コンテキストを理解し、人間と会話形式で対話しながら作業を進める、エージェント型のインテリジェント・オートメーションが可能になります。エージェントは、複雑なワークフロー全体で拡張性を実現し、企業運営を合理化する能力を備えています¹。

Table 2: 生成AIが実現するRPAの能力拡張とビジネス効果

拡張された機能	従来のRPAの限界	GenAI統合による実現（ハイパーオートメーション）	主要なビジネス効果	根拠スニペット

非構造化データ 処理	定型化された入 力フォームや画 面データのみを 処理	契約書、メー ル、PDFからの インテリジェン タデータ抽出、 分類、要約	事務作業の適 用範囲拡大、意 思決定支援、 IDP(インテリ ジェント文書処 理)の高度化	2
複雑なワークフ ロー実行	ルールベース の単純なタスク 連鎖のみ	リアルタイム入 力に基づく動的 判断、エージェ ント型オーケス トレーション	エンドツーエン ドのプロセス自 動化、人間との シームレスな連 携	1
開発・保守の容 易性	専門的な開発 スキルが必要	自然言語による 自動化フローの 作成、エラー修 復(Copilot機 能)	自動化の民主 化、開発スケ ジュールの短縮 (最大60-70%)	2

4.3. GenAI時代の主要プレイヤー戦略と競争環境:エコシステム競争の激化

GenAIの普及に伴い、市場の競争軸は大きく変化し、「エコシステム連携」が戦略上の鍵となっています。

4.3.1. コパイロット機能と自動化の民主化

Microsoftは、Power Automate Copilotを通じて、自然言語で自動化フローの作成やエラー修復、活動分析を可能にしています¹⁴。この機能は、専門家でなくとも自動化を構築できる「民主化」を促進します。UiPathも同様にAutopilot™を展開し、AIと自動化を組み合わせることで、ユーザーの意図を迅速にビジネスインパクトに変換することを目指しています¹⁵。

4.3.2. 双方向連携によるオーケストレーション能力の強化

企業のエンドツーエンドの自動化は、単一のベンダーやアプリケーション内では完結しません。この認識に基づき、主要ベンダーは「協調的競争 (Coopetition)」の戦略を採用しています。

UiPathとMicrosoft Copilot Studioの双方向統合は、この戦略の代表例です⁷。この連携により、Copilot StudioのエージェントからUiPathのエージェントや自動化を呼び出すことができ、またUiPathエージェントがCopilot Studioに処理を引き渡すことも可能となりました⁷。これにより、Microsoft 365の生産性環境と、外部のエンタープライズシステムや複雑なドキュメント理解を担うUiPathプラットフォームの強みが結合されます¹⁶。競争の焦点は、純粋なRPA機能の優位性から、複雑なITランドスケープ全体をカバーする「インテリジェント・オーケストレーション能力」へと完全に移行したと言えます。

4.4. GenAI×RPAの導入実績と期待度 (日本市場のデータ分析)

日本国内のRPAユーザーの31%が既にGenAI×RPAを利用し、53%が検討中であるというデータは、この技術融合に対する市場の強い期待を裏付ける具体的な根拠です⁵。合計84%という高い関心度は、GenAIがRPAの従来の限界、特に非構造化データ処理や複雑な判断が必要な知識業務への適用を可能にするブレイクスルー技術として、企業に認識されていることを示しています。企業は、GenAIを活用することで、これまで人間に依存していた複雑な業務を効率的かつ確実に進めることができるようになることを期待しています¹⁰。

V. 活用が拡大する主要業界分析と根拠

ハイパーオートメーションは、デジタル化と人手不足の課題に直面する様々なセクターで活用が拡大していますが、特に金融サービス (BFSI)、製造業、ヘルスケア・ライフサイエンスの3分野で、その戦略的価値が顕著になっています⁸。

5.1. 金融サービス (BFSI) : リスクとコンプライアンスの自動化

5.1.1. 導入を加速させる背景・課題

金融サービスと銀行業務は、RPAの歴史を通じて主要な市場株主であり続けています¹³。この業界は、厳格な規制順守(コンプライアンス)の要件、不正取引リスクの監視、および大量の取引に伴う複雑なバックオフィス処理(特にポストトレード業務)の非効率性といった課題を抱えています。

5.1.2. GenAI統合による主要な活用例と根拠

GenAIとRPAの統合により、これらの複雑な業務の自動化が可能になりました。例えば、ブロードリッジの「OpsGPT」のようなインテリジェント・オートメーション・エージェントを活用することで、複雑なポストトレード業務の処理、取引の失敗(フェイル)の解消、リアルタイムでの在庫最適化が可能になります¹⁷。

また、ハイパーオートメーションは、取引監視、顧客確認(KYC)、アンチマネーロンダリング(AML)といったコンプライアンス・プロセスを自動化することで、不正を最小限に抑え、規制対応の迅速化を実現します⁸。金融業界における自動化のROIは、単なるコスト削減に留まらず、「リスクの最小化」と「規制対応の迅速化」という戦略的な価値にシフトしています。

5.2. 製造業: 人手不足とノウハウ継承の喫緊の課題

5.2.1. 導入を加速させる背景・課題

日本の製造業は、少子高齢化と労働人口の減少により、深刻な人手不足に直面しており、特に熟練技術者の高齢化と技能・ノウハウの継承が経営上の重大な課題です⁹。このため、製造業におけるDXの推進は、単なる効率化ではなく、国際競争力を維持するための必須要件となっています。

5.2.2. GenAI統合による主要な活用例と根拠

ハイパーオートメーションは、労働力の不足を補い、技能継承の課題を解決する手段を提供します。

まず、GenAIとRPAの連携により、生産ラインの自動化、AIによる検品が可能になり、人手に頼っていた業務の効率化と省人化が実現します⁹。さらに重要な点として、熟練技術者の持つ知見やノウハウをデジタルデータとして蓄積・共有し、AIがそれを活用することで、特定の個人に依存しない体制を

構築し、後継者不足の問題解消に貢献します⁹。

加えて、設計部門、製造部門、品質保証部門といった複数の工場や部門をデジタル技術で連携させ、あたかも一つの工場のように機能させることで、生産状況の可視化と工場間の負荷調整を可能にし、サプライチェーン全体での最適化と効率化を図ることができます⁹。

5.3. ヘルスケア・ライフサイエンス：業務負担の軽減とリソースシフト

5.3.1. 導入を加速させる背景・課題

ヘルスケアおよびライフサイエンス業界は、膨大な管理業務、複雑なデータ管理、厳格なコンプライアンス・プロセス、そして医療従事者の慢性的な事務作業負担に直面しています。COVID-19パンデミック時には、ワクチン製造やデータ処理の必要性から、この分野でのRPA採用が急増しました¹²。

5.3.2. GenAI統合による主要な活用例と根拠

ハイパーオートメーションは、医療従事者の業務負担を軽減し、彼らのリソースを付加価値の高い患者ケアに集中させることを可能にします。

具体的な事例として、保険業界では、対話型AIチャットボットが顧客と対話しながら保険金の支払い申請に必要な情報を引き出し、RPAがその情報をシステムに自動登録することで、請求手続きをエンドツーエンドで自動化し、オペレーターの業務負担と顧客対応コストを大幅に削減することに成功しています¹⁰。

また、自動問診エンジンなどの医療AIを活用することで、医療のフロントエンドにおける事務処理を効率化し、医療従事者のリソースの最適化に寄与します¹⁸。ハイパーオートメーションは、管理業務、データ管理、コンプライアンス・プロセスの自動化を通じて、業務効率の改善とコスト削減に有益な機会を提供します⁸。

Table 3: 主要業界におけるハイパーオートメーションの導入根拠と効果

ターゲット業界	導入を加速させ	GenAI統合によ	期待される具体	根拠スニペット
---------	---------	-----------	---------	---------

	る背景・課題	る主要な活用 例	的な効果	
金融サービス (BFSI)	コンプライアンス要件、不正リスク、複雑な取引処理	複雑なポストレード業務処理、不正防止のための取引監視自動化	リスクの最小化、コンプライアンスの迅速化、顧客体験の向上	8
製造業	深刻な人手不足、熟練技術の継承、サプライチェーンの最適化	AI検品、熟練者のノウハウのデジタル蓄積、設計・製造部門の連携自動化	労働力不足の補完、生産効率の向上、国際競争力の維持	8
ヘルスケア/保険	膨大な管理業務、データ入力、規制対応、請求処理の非効率性	自動問診、対話型AIによる保険金請求手続きの自動登録	業務負担の軽減、コスト削減、医療従事者リソースのコア業務へのシフト	10

VI. 結論と戦略的推奨事項

6.1. 2030年に向けた自動化戦略：ハイパーオートメーションへの移行ロードマップ

RPA市場は、2030年に向けてハイパーオートメーションという概念に収束し、持続的な成長を続けることが予測されます。企業が競争優位性を確立するためには、単に既存のRPAを維持するのではなく、「インテリジェンスの統合」を最優先事項とすべきです。

GenAI、ML、LCNCを組み合わせることで、自動化のスコープをタスクレベルからエンドツーエンドのビジネスプロセス全体に拡張する必要があります。GenAIを活用した自動化開発機能（CopilotやAutopilotなど）は、専門家だけでなく一般のビジネスユーザーに自動化構築の機会を与える「自動化の民主化」を推し進めます。この民主化を最大限に活用し、自動化のリードタイムを最大60-70%短縮するためには、LCNCプラットフォームの積極的な採用と同時に、全社的なガバナンス体制とセ

キュリティフレームワークの構築が不可欠となります。

6.2. 企業が取るべき投資戦略とROIの最大化

RPA/HAへの投資対効果(ROI)の評価基準を再定義することが重要です。従来の評価は主にFTE(フルタイム当量)削減による労働コスト削減に焦点を当てていましたが、ハイパーオートメーション時代においては、「リスクの最小化」「コンプライアンスの迅速化」「顧客体験の向上」「国際競争力の維持」といった戦略的価値に評価軸をシフトさせる必要があります。

プラットフォーム戦略においては、自社の既存ITランドスケープを考慮し、Microsoftのような広範なエコシステム戦略と、UiPathのようなエンタープライズ特化型プラットフォーム戦略のどちらをコアとするか明確に決定しなければなりません。いずれの戦略を選択するにしても、エンタープライズ全体での複雑なワークフローに対応するため、異なるプラットフォーム間でのシームレスな「エージェント型オーケストレーション」を実現することが、ROI最大化の鍵となります⁷。

6.3. 日本企業特有の課題と国際競争力の強化策

日本企業は、自動化への投資を「効率化」の枠を超え、「事業継続性」を確保するための戦略的投資として捉えるべきです。日本の深刻な労働力不足は、ハイパーオートメーションへの投資を不可欠なものとしています。

特に製造業においては、GenAIを活用して熟練技術者のノウハウをデジタルデータ化し、技術継承の課題を解決することが、国際競争力を維持・強化するための喫緊の課題となります⁹。GenAIとLCNCプラットフォームを組み合わせることで、自動化のサイクルを加速させ、組織全体でインテリジェンスを活用できる体制を構築することが、2030年に向けた日本企業の成長戦略の要となります。

引用文献

1. 人工知能主導のハイパーオートメーションの世界市場 - グローバルインフォメーション, 10月 20, 2025にアクセス、
<https://www.gii.co.jp/report/go1744976-artificial-intelligence-driven-hyperautomation.html>
2. 変革的なトレンド: GenAI とハイパーオートメーションが組織を新たな成功の時代に押し上げる, 10月 20, 2025にアクセス、
<https://www.unite.ai/ja/transformative-trends-genai-hyperautomation-propel-organizations-into-a-new-era-of-success/>
3. ハイパーオートメーションとは? - ServiceNow, 10月 20, 2025にアクセス、

<https://www.servicenow.com/jp/solutions/hyperautomation-and-lowcode/what-is-hyperautomation.html>

4. 国内RPA市場は35億円、OCRを抜く。2022年度には400億円規模に【ITR調べ】、10月20, 2025にアクセス、<https://webtan.impress.co.jp/n/2018/11/08/30963>
5. ベンダーシェアに変化、自動化に向け生成AI×RPAに期待集まる - MM総研, 10月20, 2025にアクセス、<https://www.m2ri.jp/release/detail.html?id=634>
6. 生成式AI 全球動態 - Automation Anywhere, 10月20, 2025にアクセス、<https://www.automationanywhere.com/tw/company/blog/automation-ai/generative-ai-around-globe>
7. Announcing Agentic Automation with Bidirectional Integration between Microsoft Copilot Studio & UiPath, 10月20, 2025にアクセス、<https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot/blog/copilot-studio/announcing-agentic-automation-with-bidirectional-integration-between-microsoft-copilot-studio-uipath/>
8. ハイパーオートメーション市場レポート:2030年までの動向、予測、競合分析 - グローバルインフォメーション, 10月20, 2025にアクセス、<https://www.gii.co.jp/report/luci1597225-hyper-automation-market-report-trends-forecast.html>
9. 製造業のDXとは？重要視される理由や事例、今後の課題をわかりやすく解説, 10月20, 2025にアクセス、<https://www.japan-it.jp/hub/ja-jp/blog/article-48.html>
10. RPAとAIは何が違う？RPAとAIの違いについて解説！ | RPA業務自動化ソリューション, 10月20, 2025にアクセス、https://www.hitachi-solutions.co.jp/rpa/column/rpa_vol15.html
11. Robotic Process Automation Market | Industry Report, 2030 - Grand View Research, 10月20, 2025にアクセス、<https://www.grandviewresearch.com/industry-analysis/robotic-process-automation-rpa-market>
12. ロボットプロセスオートメーションの市場規模は、CAGR 20.3%で2030年までに全世界で505億ドル相当に達すると予測 - PressWalker, 10月20, 2025にアクセス、<https://presswalker.jp/press/15385>
13. ロボティック・プロセス・オートメーションの市場規模予測2030年| 業界シェアレポート, 10月20, 2025にアクセス、<https://www.marketresearchfuture.com/ja/reports/robotic-process-automation-market-2209>
14. Adopt automation with Copilot in Power Automate - Microsoft Learn, 10月20, 2025にアクセス、<https://learn.microsoft.com/en-us/power-automate/copilot-overview>
15. Autopilot meets Copilot: Creating AI-powered automation experiences | UiPath, 10月20, 2025にアクセス、<https://www.uipath.com/blog/product-and-updates/autopilot-copilot-integration>
16. UiPath Integrates with Microsoft Copilot for Microsoft 365, 10月20, 2025にアクセス、<https://www.uipath.com/newsroom/uipath-integrates-with-microsoft-copilot-for-microsoft-365>
17. 日本の金融業界におけるAI導入 ～準備状況と課題、そして今後の展望～ -

Broadridge, 10月 20, 2025にアクセス、

<https://www.broadridge.com/jp/article/capital-markets/ai-adoption-in-japan-financial-sector>

18. テクノロジーで実現する医療ROIの最大化 | 阿部吉倫 - note, 10月 20, 2025にアクセス、<https://note.com/abeyoshinori/n/n99dcacdaad1f>